

平成 28 年 8 月 24 日

博士論文審査結果報告書

報告番号 _____

学籍番号 1127022019 _____

氏 名 米田 昌代 _____

論文審査員

主 査 (教授) 田淵 紀子 _____ 印

副 査 (教授) 島田 啓子 _____ 印

副 査 (教授) 北岡 和代 _____ 印

論文題名 Validity on tentative design of a regional cooperation system _____

for post-discharge perinatal grief care by the Delphi method _____

(デルファイ法による退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案の妥当性の検討)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究は、周産期に児と死別(死産・新生児死亡)体験をした母親のグリーフケアの充実をめざして作成した「退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案」の妥当性を検討することを目的とした。調査期間は2015年3月～10月であり、デルファイ法による調査を行った。パネリストは医療施設、行政、自助グループの代表者とし、2回の質問紙調査で集約した。質問項目はモデル試案をもとに、退院後の支援・連携内容19項目設定し、「1. 有用でない」から「5. 非常に有用である」の5段階のリッカート法で実施した。同意率は51%以上に設定し、51～69.9%を低い、70～79.9%を中等度、80%以上を高い同意率とした。第1回調査82名、第2回調査65名から返信があり、中等度(70%)以上の同意率を得たものは19項目中17項目(89.4%)であり、概ねモデル試案が妥当であることが示唆された。特に医療施設が核になって実施するグリーフケアと退院後の連携(退院後のグリーフケア担当者の決定と関係機関との連絡調整、行政へ周産期の死の連絡、退院後の電話訪問・面談、自助グループとの交流)は高い同意率(80%以上)が得られた。今後は入院中から母親と体験を共有した医療施設を核として、行政は自助グループへの支援等後方的支援の役割を果たしつつ、三者の連携を高め、実質的な支援システムの実働化をはかることが課題として示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、長年グリーフケアに携わり、自助グループへの支援を行ってきた研究者が作成した地域連携システムモデルの妥当性を検証したものである。本研究成果は、発展的にグリーフケアの質の向上につながるものであり、有意義な研究である。質疑応答では、システムモデル試案の構成、調査対象の選定、調査項目の同意率、今後の展望等について質問がなされたが、いずれも適切に回答していた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。